

水山 汶陽 紫府 薦闕 丹臺

〔公武大體略記〕一仙院

天子御位をすべらせ給ひ、太上天皇の尊號ましくて、院の御所に渡らせ給ふを、上皇、仙洞など申なり、又和歌の諺に、藐姑射山、綠洞など申奉るは、院の御事なり、

〔榮花物語〕花二八月二年永觀になりぬれば、廿七日御讓位とてのゝしる、其日になりぬれば、みかど

融〇圓はおりさせ給ぬ、中おりぬのみかどは、堀河の院にぞおはしませける、

〔増鏡〕十三秋のみ山、四おりぬの御門、〇花は、御このかみの本院〇後と、ひとつ持明院殿にすませ給、

〔源氏物語〕三十四若菜、四六條院も、〇中御たうばりのみふなごころ、皆同じごと、おりぬのみかど、ひとしく定まり給へれど、まことの太上天皇の儀式にはうけげり給はず、

〔本朝續文粹〕七書狀、鳥羽院奉答天皇、〇崇請罷尊號、仙院、〇鳥御報書、

〔椿葉記〕仙洞、〇後宸筆の御入講行はる、

〔執次詰所記〕中御門、享保廿年三月廿三日、尊號太上天皇、奉稱仙洞、

〔公明卿記〕寛政四年正月十八日、閑院一品宮仁、〇典御事、〇中尊號宣下無之而者不相叶、〇中仙洞、〇後

櫻町思召も、勿論御同様之御事、〇下

〔下學集〕上人倫、姑射山、〇指仙洞也、姑射山、〇仙人之所居也、祝以謂院居也、

〔莊子〕一逍遙遊、藐姑射之山、有神人居焉、肌膚若冰雪、淖約若處子、不食五穀、吸風飲露、乘雲氣、御飛龍、

而遊乎四海之外、

〔萬葉集〕十六有由縁并雜歌

心乎之無何有乃鄉爾置而有者藐姑射能山乎見末久知香谿務

〔千載和歌集〕十百首の歌よみ給ける時の祝の歌

式子内親王